

令和２年度 学校運営連絡協議会実施

1 組織

- (1) 都立葛西工業高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員 2 名 計 3 名
- (3) 内部委員の構成
副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、総務主任、主幹教諭（生活指導担当）、主幹教諭（進路指導担当） 計 6 名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（大学教授）、PTA 会長、前 P T A 会長、同窓会長、地域有識者（地域企業団体代表者）、近隣中学校長 2 名、近隣自治会代表者 2 名 計 9 名

2 令和２年度学校運営連絡協議会の概要

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、すべて書面開催とした。

(1) 学校運営連絡協議会

- 第 1 回 令和 2 年 6 月 2 4 日（水）内部委員 6 名、協議委員 9 名に資料送付
学校運営連絡協議会の趣旨説明、学校近況報告、外部委員の紹介、協議委員委嘱
- 第 2 回 令和 2 年 1 1 月 2 5 日（水）内部委員 6 名、協議委員 9 名に資料送付
学校近況報告（各分掌より）、協議委員からの教育活動に対する意見
- 第 3 回 令和 3 年 3 月 1 7 日（水）内部委員 6 名、協議委員 9 名に資料送付
学校近況報告（各分掌より）、協議委員からの教育活動に対する意見

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

- 第 1 回 令和 2 年 6 月 2 4 日（水）内部委員 2 名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討を電話連絡にて実施。
- 第 2 回 令和 2 年 1 1 月 2 5 日（水）内部委員 2 名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討を電話連絡にて実施

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- | | |
|---------------|-------------|
| ・ 1 月 全校生徒 | 回収： 4 7 6 人 |
| ・ 1 月 保護者全員 | 回収： 3 2 4 人 |
| ・ 1 月 地域住民 | 回収： 4 5 人 |
| ・ 1 月 近隣中学校生徒 | 回収： 2 8 9 人 |
| ・ 1 月 教職員 | 回収： 5 5 人 |

(3) 主な評価項目

- ・ 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、部活動、安全、施設・設備等
- ・ 学校の特色化に対する保護者・地域・中学校の理解
- ・ 地域との連携事業及び奉仕活動・ライフワークバランス

(4) 評価結果の概要 (学校及び校長への意見・提言内容)

- ・授業のわかりやすさに関する項目では、ほとんどの教員が肯定的であるのに対して生徒・保護者の肯定的な回答が80%と高いものの、一定数の否定意見が上がっている。しかし、「質問のしやすさ」については全体的に肯定意見が多い。
- ・生活指導においては、身だしなみや生活態度、社会のルールを順守することについては、取り組みが浸透していることがうかがえる。一方で、家庭においては生活指導の方針があまり理解されていないことが示唆される。
- ・生徒・教員間の関係性については、生徒・教員ともに肯定的な意見が9割程度で、双方にとって良好な関係が築けていると考えられる。
- ・進路指導において、適切な指導・助言が行われていると回答した生徒・保護者の割合が高い。
- ・「生徒の適性や希望などを生かした適切な指導が行われているか」という設問に対し、生徒・保護者・教員ともに肯定的な回答が多い。

(5) 評価結果の分析・考察 (学校及び校長への意見・提言)

- ・継続的なキャリア教育や進路指導を行い、自らの将来、職業について今まで以上に考える機会を設ける。
- ・小テストやまとめの時間を今まで以上に設けるとともに、机間指導を行うことで生徒の実態を把握し、個に応じた指導を行うこと。
- ・スクールカウンセラーと連携し、生徒の悩みを共有し、生徒の自己実現能力を高めること。
- ・進路指導において、今後も継続して情報収集や生徒の適性や希望を生かした指導を行う。
- ・葛西工業の良さを活かした行事や広報活動を展開し、生徒が自らの良さを見出せるように機会を積極的に設ける。

4 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項 (学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

- ・今後も開かれた学校づくりを継続して行い、生徒・保護者における教育目標の理解を深めるとともに、地域との交流を積極的に行う。
- ・自らの将来、職業についてキャリア教育や進路指導を継続的にを行い、今まで以上に考える機会を増やす。

(2) 学習指導

- ・資格取得の機会を多く与え、継続的な指導を行う。
- ・個に応じた指導を行うために、生徒個々の理解度を図り、授業改善を継続して行う。

(3) 生活指導

- ・生徒の非違行動の件数を減らすために、生徒に寄り添った指導を行う。
- ・スクールカウンセラーと連携し、生徒との関わりを増やすことで、相談しやすい環境づくりを行う。

(4) 進路指導

- ・生徒の適性や希望に沿った進路の実現を行うために、生徒や保護者が相談しやすい環境を構築する。
- ・インターンシップなど外部と連携した進路指導を継続的に行う。

(5) 特別活動

- ・次年度については、実施できる行事を検討し、本校の良さや特色を生かした行事を実施する。

(6) 健康・安全

- ・外部と協力して安全教育を行うことで、生徒の防災・安全教育についての理解を深める。

5 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- ・今年度は参加実績はなし